

令和7年度 青梅市立第七小学校 学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞ 1 豊かな心の育成 2 確かな学力の育成
3 健やかな体の育成 4 家庭や地域との連携

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
							評価	コメント	
豊かな心の育成	「自他ともに尊重する」「仲良く助け合う子」を育成する。	人権教育・心の教育の推進による自己肯定感の向上	清掃や集会、学校行事などでの異年齢集団（たてわり班）による活動や交流活動の充実を通じて、思いやりや尊敬の念、自己肯定感の育成を図る。	A	たてわり班活動を通し、上級生が下級生の世話をする土壌ができています。	たてわり班活動の意義を共有する。児童数減少への対応を考えていく。	A	七小ならではのよい活動の中、子供が育っている。	七小の特色を継承しつつ、内容を見直し工夫していく。
			自他ともに大切に思える取組とあらゆる偏見や差別、いじめをなくすための取組を推進する。また、心理的安全性が保たれた学校を作る。	C	挨拶や丁寧な言葉遣いはできるが、他者の気持ちを想像することに課題がある。	SCや養護教諭だけでなく、全職員が課題を共有し、相談できる関係をつくる。	B	基本的に上下級生・男女を問わず関わり、仲がよい。	より一層、児童に丁寧に寄り添い、早期対応に当たっていく。
			奉仕活動、勤労生産活動や自然の中での体験活動の充実を図る。	B	植栽やウサギの世話等、積極的に活動している。	様々な分野の体験的な学習の充実を図る。	A	環境を生かした体験学習が充実している。	持続可能な形での活動を教員の共通理解のもと進めていく。
確かな学力の向上	「楽しく自ら」「進んで学習する子」を育成する。	学習意欲の向上（主体的な学び）と学びの個別最適化・協働化	問題解決的な学習を重視し、見通し・振り返りのある授業を通じて学習意欲の喚起を図る。	B	様々な体験活動や経験が、学習意欲の向上につながっている。	児童の学習意欲に応じて、教材作りや授業改善を図っていく。	B	概ね少人数を生かした指導が行われているが、差異が見られる。	校内研究や研修を通して、指導力の向上を目指していく。
			言語活動や読書活動の充実を基盤に、対話のある授業を実践し、考える力・表す力の育成を図る。	B	読書量、書字、読解力について課題があると感じる場面がある。	授業での話し合いは活発に取り組んでいる。	A	活動には集中して取り組み、対話もよくできている。	より、対話の狙いを焦点化して考える力の育成を図る。
			タブレット端末の効果的な活用（教具から文具へ）を推進し、学びの個別最適化・協働化を図る。また、情報活用能力と情報リテラシーの向上を図る。	C	タブレットの活用は十分ではない。ルール徹底についても課題がある。	タブレット使用のルールやマナーについての指導を繰り返す。	B	タブレットの活用は、重要なので推進してほしい。よく活用されている。	教員・児童の個人差もあるので、研修等で活用の幅を増やしていく。
健やかな体の育成	「安心安全な環境の中で」「丈夫な体をもつ子」を育成する。	健康・体力づくりと命を守る教育の推進と特別支援教育等を含めた多様性のある教育環境の推進	体力アップカード、サーキットトレーニング、マラソン・なわとび月間等による日常的な取組により、体力維持と向上を図る。	B	マラソン月間やなわとび月間の取組は児童の意欲向上に効果的だった。	運動の日常化を図る為、年間を通して取り組めるものを作る。	A	マラソンやなわとびの取組など児童は頑張っていた。	日常的な取り組みで、持続可能な内容を考えていく。
			地域の実態を考慮した日常的な安全指導・安全管理の徹底と、実践的な避難訓練により、自分の命は自分で守る意識の向上を図る。	B	概ね、命を守る行動を意識できている。安全指導の共通理解が課題である。	現行の避難訓練、安全指導を見直し、児童の対応力を育む取組を取り入れている。	A	避難訓練や安全指導、地域との連携がよくできている。	今後も学校の訓練等の指導を継続し、地域とも連携を図っていく。
			特別支援コーディネーターやスクールカウンセラーを活用した校内委員会や教育相談体制の充実と、特別支援教育の推進により、多様性の理解を図る。	B	児童の実態についての情報共有はできている。支援に繋げる手続きの理解に課題がある。	特別支援関係の手続きや情報について、校務支援システム等を活用して共有を図る。	B	概ね、児童の実態についての情報共有はできている。	教育相談体制の充実を図り、組織的に対応していく。
家庭や地域との連携	地域に根ざした「地域とともにある学校」づくりを推進する。	地域・保護者との連携と地域の環境や人材を活用した教育活動の推進	地域人材や環境を活用した体験活動（ヤマメ、ウサギ、蚕の飼育体験や野菜、稲作等の栽培体験）の充実を図る。	B	年間を通し、様々な学年で、地域人材を活用した体験活動ができた。	今後も引き続き、地域の方に協力依頼し、持続可能な取り組みを目指す。	A	年間を通し、環境や地域人材を活用した体験活動ができている。	地域の方に協力を依頼し、持続可能な取り組みを目指す。
			各種たより、公開等、様々な機会を活用し、学校情報の発信に努める。また、コミュニティ・スクール委員会を中心とした地域との連携を深める。	B	学校長が「マチコミ」のタイムラインを活用し、学校の様子を配信することができた。	地域との連携について、一定の成果があった。	A	学校だよりやマチコミ等を活用し、学校の様子が地域にもよく伝わった。	今後も、保護者・地域への情報発信に努めていく。
			他校（第六中学校や成木小学校、おそき保育園等）との交流や合同学習の充実を図る。	B	成木小学校、おそき保育園と、交流活動ができた。	交流の目的を共通理解しながら、引き続き継続していく。	B	中学校との交流が増やせるとよい。	持続可能な教育課程中で、検討していく。

*評価 A：達成した B：ほぼ達成した C：もう少し D：達成できなかった